

二泊三日を砺波詰所で過ごした「濃いめ」の時間。多くの刺激と気づきをいただきました。

発表と座談の時間においては、まず、自分の思いを隠さずに出すことの難しさがあると感じました。自分が今話していることは、本当に思っていることなのか、それとも自分の周りに築いた「言葉による壁」のようなもので、本当に言いたいこととは少し隔たりがあるものなのか、そもそも私が「本当に言いたいこと」などあるのか…：そんなことを考えたりしました。

先生の講義で一番驚いたことは、『歎異抄』第二条の読み方が、私の場合致命的に甘かったということでした。親鸞聖人はご門徒の「御こころざし」に驚き、かしくいた上で「総じてもって存知せざるなり」と、最大限の敬意をもっておっしゃったということ。そこを読み取れなかったのは、何よりも自分のご門徒に対する姿勢が、横柄で不遜だということの表れなのだと、突き付けられました。

そして、懇親会の席でのこと。私は、日頃なかなか了解できない経釈の言葉を、先輩に「どういう意味なんですかね」と尋ねることが、二度ありました。そして、二度とも「どう思う?」「君はどう考えてるの?」と何度も聞き返されました。いや、分からないからお聞きしてるんですが…とは言えず、しどろもどろで何か言っていると、「うん。で、君はどう思うの?」とまた聞かれるのです。

考えてみると、「問いが大事なんだよ」と何度も教わり、そうだなあ、と思ったりしながら、その実自分が立っている場所は「答えをください」という地点から、一歩も出ていなかったのです。そのことを、伝研の先輩方は、私に教えてくださいました。

「君はどう思うの?」

この度の自主伝研でいただいた、もつとも大事な言葉だと感じています。